

人文学研究所共同研究グループ一覧

2007年5月23日

No.	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メ ン バ ー	人数	叢 書
1	日中関係史	近代以降、現在までの日中関係の諸問題	1. 各自の関心に基づく講演会、研究会の開催 2. 中国人日本留学史と日本人中国留学史に関する調査研究 3. 中国における日本租界史の研究。 4. 1945年直後における日・中・韓・三国間の戦時・戦後に関する論調比較	大 里	大里・中島(三)・松本(安)・日高・山口(建)・鈴木(陽)・彭・孫・村井(寛)・〔非〕吉川(良)・〔非〕楊(中)・〔非〕梁・〔非〕呉・〔学外〕小林(一)・〔学外〕李・〔学外〕川島・〔学外〕並木・〔学外〕木山・〔学外〕田畑〔学外〕三好・〔営〕貴志	21	2009年 検討中
2	文化のかたち	21世紀の新千年にふさわしい総合的な文化や文明の把握を目指し、新しい『知の地平』拓く。	2005年に叢書『文化のかたち 言語・思想・くらし』を刊行したが、第二弾を出版するを目的として活動する。すでに第二弾の企画がいくつかメンバーから出ているので(日本とロシアの文化の様々な側面における交流や両者の文化比較をテーマとする、など)、本年度は研究報告等の研究活動を行っていく中で調整しながら、叢書の具体的な内容について検討していく。また、研究報告会の他にも、メンバーにおいて計画が整えられれば、シンポジウムなども開催したいと考えるので、検討していきたい。	堤	水野・岩本・羽佐田・小馬・鈴木(修)・堤・大須賀・石井(美)・ヒル・細田・駒走・マコウミ・小林・鈴木(幸)・〔非〕八島・〔非〕米重・〔学外〕湯田・〔学外〕赤坂・〔学外〕中本・〔学外〕秋山・〔学外〕佐藤(江)	19	2008年 検討中
3	西洋文化の受容—思想と言語—	日本の近代化に際しての、ヨーロッパ及びアメリカ文化の受容の	『明六雑誌とその周辺』を刊行後、共同研究グループとしての活動はしばらくブランクが続いているが、各自の個別活動は、「表象としての日本」に再統合されたり、新学科「国際文化交流学科」の授業に向けてなされている。しかし本年度は、再び共同研究としてテーマを再考の上、定期的に活動を始めたいと思う。	鈴木(修)	鈴木(修)・伊坂・岡島・中島(三)・佐藤(夏)・孫・〔法〕吉井・〔経〕池上・〔学外〕高野・〔学外〕岡野(哲)・〔学外〕浅山	11	2003年 出版
4	物語研究	物語の構造分析 歴史叙述と文学	1. 研究会を4回程度開催ただし、今年度はメンバーが「共同研究奨励助成」とダブっているので共同で開催する予定。 2. ニュースレターを発行。ただし 不定期。 3. 講演会の開催。 4. 叢書については、前記「共同研究」とも重なっているいで、2008年度に刊行を予定し、物語研究のメンバーにも執筆の依頼をしたいと考えている。	日 高	日高・伊坂・鈴木(修)・鈴木(陽)・小馬・鈴木(彰)・鳥越・村井(ま)・山口(ヨ)・坪井	10	2008年 検討中
5	各国地方史の比較史的研究—新編中国地方志叢書を中心として—	世界史を現存する国家、民族、文明ではなく、地方史という地域史的観点から見直すことを目的とする	年に4回の研究会を開き、各回、中国研究者と他分野研究者の発表を行うことを目指している。2007年度にも、引き続き研究会を開催し、活動の充実を図りたい。	孫	孫・大里・岡島・村井(寛)・〔経〕柳沢・〔営〕廣田・〔学外〕佐々木・〔学外〕谷川・〔学外〕小林(一)・〔職員〕吉田・〔職員〕額賀・貴志〔営〕	12	検討中
6	自然観の研究	自然観の変遷と展望	1. 哲学、文学、環境学など異なる分野から「自然観」を追求している。昨年度から開催の研究会を通して、研究班としての共通軸を確立する。 2. その上で、叢書としてまとめるための構想を練る。	佐 藤(夏)	佐藤(夏)・伊坂・岩崎・奥田・鈴木(修)・松本(安)・坪井・〔営〕復本	8	2008年 予定
7	東アジア比較文化研究会	日本、中国、朝鮮等の言語、文学、歴史、民俗などの伝承文化の比較研究	研究会と講演会を適宜開催していく。	山 口(建)	山口(建)・福田・中島(三)・日高・大里・彭・鈴木(陽)・孫・小馬・前田(禎)・〔経〕佐野・〔経〕河野・〔営〕田畑・〔営〕廣田	14	未定

〔名〕名誉教授

〔非〕非常勤講師

〔学外〕学外研究者

人文学研究所共同研究グループ一覧

No.	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メ ン バ ー	人数	叢 書
8	色彩と文化	世界の色の記号に関する実証的研究	1. 原則、月1回の研究会を開く。 2. 年、数回講演会を開催する。 3. 比較言語学、色名の知覚的ゆらぎ、ジェンダー、景観等、色彩と文化及び色彩と自然との関わりについて実験、調査する。	三 星	三星・彭・堤・尹(亭)・新木・星野・八久保・小林・[工]山本・[営]加藤(薫)	10	2010年 検討中
9	横浜研究	横浜における多文化共生社会の創出の研究	昨年度は出版に向けて研究会を行ってきた。又、研究会として3回目の国際シンポジウムも開催した。今年度は成果として、出版を実現したい。執筆予定者の原稿もすでに準備が出来ている。	横 倉	横倉・後藤(政)・永野・寺沢・孫・平井・尹(亭)・大里・富谷・福嶋・[経]後藤(晃)・[経]兼子・[法]阿部・[学外]福元	14	2007年 検討中
10	神々のコスモロジー	世界と日本の各国・各地の神々・宗教の研究	今年度4回の研究・報告会を予定している(すでに一回は開催)。前期中にすべてのメンバーの発表をすませ、後期は叢書刊行へ向けて原稿作成期間として予定している。『神々のコスモロジー』刊行は2008年度前半を予定している。	寺 沢	寺沢・小馬・鈴木(彰)・山口(建)・尹(亭)・新木・[営]新垣・[学外]湯田	8	2008年 予定
11	言語変異研究	1. 地域文化と言語変異 2. 時代変容と言語変異 3. 社会階層と言語変異 4. 社会意識と言語変異	1. 研究テーマに即した研究調査を行う。 2. 講演会・研究会を開催する。	彭	彭・[非]浅井澄民・加藤・[非]陶・松村・[非]山村入江・河上・山口(田)・笠間・村井(ま)	6	
12	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	従来の二項対立という図式をこえるような形でジェンダーという「差異」のポリティクスを各自の専門分野から浮上させていく。	1. メンバーと外部研究者による研究会を開催する。 2. 叢書に向けて各自テーマにしたがって論文を執筆する。	入 江	松本・三星・坪井・古屋・富谷・福嶋・師岡・[非]杉本・[非]大高	5	検討中
13	コミュニケーション研究会	多面的な人間の意識と行動についての理解と、それを基にしたコミュニケーションの方法論について	研究会のメンバー及び外部の研究協力者で、既存の研究についてレビューを行い、それぞれのテーマについて議論を行う。	松 本	永野・小馬・笠間・後藤・村井(寛)・[経]的場・[営]泉水・[非]中林	9	
14	植民地近代性の国際比較	「植民地近代性 (colonial modernity)」という概念を軸として、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の政治・社会・文化・歴史の比較研究を行う。この概念は、植民地的要因が植民地時代に限定されて存在するではなく、植民地後にも残滓として各社会の底辺を形づくっている点について考察することができる。また、時間軸を越えて複数の国民国家や社会の比較が可能となる	年2回～3回の研究会(読書会)を実施し、植民地近代性の研究についての現状を把握する。	永 野		8	

〔名〕名誉教授

〔非〕非常勤講師

〔学外〕学外研究者